

柔道しずおか

平成 27 年 3 月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒431-3114 浜松市東区積志町 1503 伊藤武治
TEL 090-1473-4136 FAX 053-589-3000
http://www.geocities.jp/shizuokajudo/

【巻頭言】

会長就任にあたり

静岡県柔道協会会長 七段 野田 昭一



昨年二月の理事会にて会長に選任され就任いたしました。職責の重さを痛感するとともに、微力ではありますが、静岡県柔道協会の発展に尽力する所存であります。

暗いニュースが多かった日本の柔道界ですが、宗岡正二全柔連会長を中心に改革に取り組み、徐々にその効果が現れています。中でも今年度から発足した「柔道 MIND プロジェクト」特別委員会は、嘉納治五郎先生の教えの精神、柔道の心に立ち返ろうという取り組みであり、MIND は四つの頭文字をつなげたものです。

MはManner（礼儀）、IはIndependence（自立）、NはNobility（高潔）、DはDignity（品格）を意味します。これらを守ってこそ真の柔道家に相応しいとのメッセージがこめられています。

少子化が進み、競技人口の減少が大きな問題となっておりますが、まずは、柔道に携わる者全てが、この柔道MINDを持ち続けていけば、おのずと柔道の素晴らしさが社会全体に理解され、ひいては柔道人口の増加にも寄与するものと確信しています。

静岡県柔道協会としても、この「柔道 MIND プロジェクト」を積極的に推進していくことと思っております。

静岡県の柔道界に目を向けると、昨年六月に全日本実業団柔道団体対抗戦が四十五年振りに静岡県で開催され、オ

リンピック選手をはじめ全国トップレベルの選手が一同に会し熱戦を繰り広げました。関係各位の御協力のもと一年余りの準備の甲斐もあり、無事大会を終了することができました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

強化の面では、藤枝順心高校の鈴木選手が全日本カデ大会で二連覇、谷川選手がインターハイで優勝したのをはじめ、その他にも小学生からシニアまで多くの選手が全国大会で活躍してくれました。これも強化の取り組みが徐々に実を結んできているものと感じています。

また、全柔連審判委員会の西田孝宏委員長を講師としてお招きし、審判講習会を開催するなど、選手だけでなく、指導者や審判のレベルアップについても力を入れてきました。

このような取り組みの基盤となる協会組織につきましても、今年度より以下のとおり再編し、役割分担を明確にし、

各種事業の推進に取り組んでいきます。

◆総務委員会（財務部会 柔道 MIND プロジェクト部会 登録部会）

◆審判・「形」委員会（審判技術向上部会 形技術向上部会）

◆広報・普及委員会（広報・記録部会 普及部会）

◆強化部
全柔連同様、静岡県柔道協会も「改革」が必要です。しかし、まだ試行錯誤の連続で、皆様の協力なしでは成り立ちません。静岡県の柔道が全国のモデルになるよう、執行役員一丸となり、普及・強化、組織の充実を図っていく所存ですので、これまで以上に当協会への御協力、御支援と更なる御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第69回 国民体育大会柔道競技報告

第六十九回国民体育大会柔道競技は、平成二十六年十月十九日から二十一日の間、長崎県諫早市小野体育館において開催されました。

八月に開催された東海ブロック予選では、成年女子及び少年男女がそれぞれ健闘しましたが惜しくも一件の出場枠も獲得することができず、成年男子のみの出場となりました。

今回の成年男子は、実績のある県警三選手に選手選考会で県の増田・齋藤選手に勝ち、勢いのある平井選手、国体初出場ながら全国大会出場経験のある鈴木選手、以上五人のチーム構成

総監督	石川裕章	石川接骨院
総務	磯部拡美	清水桜が丘高校教諭
トレーナー	赤池理	アカイケ鍼灸接骨院
監督	渡辺達也	静岡県警察
先鋒 (60kg級以下)	鈴木優希	流通経済大学
次鋒 (73kg級以下)	眞野洋光	静岡県警察
中堅 (90kg級以下)	小椋俊彦	静岡県警察
副将 (90kg超級)	平井諒輔	東海大学翔洋高校教諭
大将 (無差別)	滝川英克	静岡県警察

成となり、チームワークを大切に五位以上の入賞を目標に掲げ、大会に臨みました。

成年男子一回戦

一回戦は、チェリヤビンスク世界柔道選手権大会100kg超級銀メダルの七戸龍選手を擁する沖縄県との対戦となりました。

先鋒の鈴木は十分な組み手になることができなかったものの、機を伺い狙いすました内股で有効を奪いチームに勢いを呼び込んだ。

次鋒の眞野の対戦相手は、警察体重別大会準優勝の実力者だった。両者牽制しあって膠着状態となり攻めてを欠き、ポイントを奪えず時間切れ引き分けとなった。

中堅の小椋は、相手の力が強く自分の組み手にさせてもらえず、いまひとつ攻めきれず引き分けとなった。

副将の平井は、相手の圧力が強く得意の組み手にさせてもらえず、後半消極的になったところ払腰を受けてしまい一本負けだった。

大将の滝川は、世界選手権大会銀メダルの七戸選手に臆することなく左小外刈でグラつかせる場面もあったが、相手の技の仕掛けが早く消極的になったところを反則を取られ、指導2

差で敗れた。

先鋒戦で勝利したものの次鋒以降の選手でチームに流れを持つてくることができずに敗退してしまつたというのが実感です。今後の課題としては、勝利するには試合時間の最初から最後まで技を掛け続けるスタミナを養い、正しい組み手からの攻撃柔道に徹することが必要であると感じています。更に精進を重ね、最強・最高のチーム作り

に励みたいと存じます。関係各位に感謝申し上げます。すとともに平成二十七年和歌山国体での活躍を誓い、大会結果の報告とさせていただきます。

(文責 静岡県警察 渡辺達也)



第35回国体 東海ブロック大会

平成26年8月24日 岐阜県

成年女子

静岡県0-2 愛知県
静岡県2-1 三重県
静岡県3-0 岐阜県

少年男子

静岡県1-4 愛知県
静岡県3-2 三重県
静岡県2-2 岐阜県

少年女子

静岡県0-3 愛知県
静岡県2-1 三重県
静岡県1-1 岐阜県

1勝2敗 3位

愛知県が本大会出場

少年男子選手

先 芹沢翔哉 (静岡学園高校)
次 横山稜悟 (東海大学翔洋高校)
中 植田蒼太郎 (浜松商業高校)
副 大橋昂文 (日本大学三島高校)

少年女子選手

先 福本菜摘 (沼津市立沼津高校)
中 安竹真利奈 (東海大学翔洋高校)
大 楠 麻衣 (加藤学園高校)

成年女子

先 神山結理 (立命館大学)
中 神林希衣 (高岡法科大学)
大 村瀬由樹 (国際武道大学)

第56回 静岡県柔道祭開催

平成26年5月4日午前9時30分開始 静岡県武道館

今年も静岡県柔道祭が県武道館で開催された。新しく静岡県柔道協会会長に就任した野田昭一会長からあいさつに続き、今年度は静岡学園高校の佐野安大君により選手宣誓が行われた。佐野君は第36回全国高等学校柔道選手権大会男子81kg級で3位に入賞し、今年活躍が期待される選手である。佐野君の選手宣誓に続き、恒例の柔道協会表彰が行われ、次の方々が表彰された。

- 特別功労賞
- 高田勝之 八段
 - 川中邦夫 八段
 - 吉川博智 七段
 - 神山 巖 七段
 - 木内孝教 七段
 - 佐藤重雄 六段
 - 佐藤有宏 六段

- 永年功労賞
- 橋本五十夫 八段
 - 佐野武雄 七段
 - 福村 直 七段
 - 北川輝彦 七段
 - 山口義四男 六段
 - 下山隆伸 四段
 - 黒柳忠義 四段

- 功労賞
- 工藤信二 六段
 - 増田博通 五段
 - 神谷元久 五段

渡邊智巳 四段
山口麻和 三段
沼野由香利 女子四段
後藤奈美 女子三段
優秀指導者賞
沼野由香利 女子四段
（藤枝順心高校柔道部顧問）
鈴木茉莉選手を育成

優秀選手賞
佐野安大 初段（静岡学園高校）
第36回全国高等学校柔道選手権大会男子81級 第3位
鈴木茉莉 女子初段（藤枝順心高校）
平成26年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子44kg級 優勝
安竹真利奈 女子初段（東海大学翔洋高校）
平成26年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子63級 第3位

表彰に続き試合が開始された。毎年このころにはあるが、小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、観客席から大きな声での声援が送られ県武道館は大いに盛り上がりつつあった。

第56回静岡県柔道祭成績
小学生の部

優勝 育誠館道場
2位 大仁柔道会
3位 清水町柔道会
富士宮柔道会

中学男子の部

優勝 東海大学翔洋高校中等部
2位 育誠館道場
3位 高台中学校
磐田南中学校

中学女子の部

優勝 東海大学翔洋高校中等部
2位 市立沼津高校中等部
3位 神士館
浜北北部中学校

高校男子の部

優勝 東海大学翔洋高校
2位 浜松商業高校
3位 静岡学園高校
加藤学園高校

高校女子の部

優勝 東海大学翔洋高校
2位 沼津市立沼津高校
3位 加藤学園高校
藤枝順心高校

一般の部

優勝 静岡県警察
2位 静岡産業大学A
3位 富士市柔道会
高柳喜一商店

優秀選手

小学生の部
服部航太（育誠館道場）
佐々木勇太郎（大仁柔道会）
中学男子の部
米山竜生（東海大学翔洋高校中等部）
長屋友（育誠館道場）
中学女子の部
澤崎莉子（東海大学翔洋高校中等部）
菊地さくら（市立沼津高校中等部）
高校男子の部
塚本瑠羽（東海大学翔洋高校）
植田蒼太郎（浜松商業高校）
高校女子の部
遠田真子（東海大学翔洋高校）
福本菜摘（沼津市立沼津高校）
一般の部
滝川英克（静岡県警察）

森田悠斗（静岡産業大学A）

今年の優秀選手

例年秋に表彰していたが今年は大大会毎に表彰しているため、柔道祭で表彰してからの優秀選手をまとめておく。

水野瑚春 女子初段（藤枝順心高校）
平成26年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子63級 第3位
山田知輝 二段（東海大学付属翔洋高校）
全国高等学校総合体育大会柔道競技男子81kg級 第3位
谷川美歩 女子初段（藤枝順心高校）
全国高等学校総合体育大会柔道競技女子57kg級 優勝
全国高等学校定時制通信制柔道大会女子団体戦 第3位
静岡県女子チーム
（瀧本光咲・クラーク記念国際高校浜松、加藤樹梨・三島長陵高校、木下由美・新居高校）
木下由美 女子初段（新居高校）
全国高等学校定時制通信制柔道大会女子個人63kg超級 第3位
澤崎 凜（清水町柔道会）
全日本小学生学年別柔道大会小学5年女子40kg超級 優勝
大橋海斗 初段（三島市立錦田中学校）
全国中学校体育大会柔道競技男子90kg級 第3位
山下諒輔（静岡県警察）
全国警察柔道選手権大会男子81kg級 優勝
正治和也（静岡県警察）
全国警察柔道選手権大会男子66kg級 優勝

第64回 全日本実業柔道 団体対抗大会

平成26年6月7日（土）、8日（日）
静岡県武道館

静岡県では過去に多くの全国大会を実施してきたが、平成23年4月に行われた全日本カデ柔道選手権大会以来の全国大会であった。協会の事務局長を中心に準備作業が進められ、大会当日を迎えることができた。

開会式では、全日本柔道連盟と実業柔道連盟の宗岡正二会長が「柔道界の現状から、人格と強さを兼ね備えた柔道人を育成していかなくてはならない」と挨拶を行った。旭化成の野田選手が選手宣誓を行い、1日目の競技が開始された。女子1部は4チームのリーグ戦で行われ、日本のトップクラスの選手たちが息詰まる熱戦を展開してくれた。コマツが女子1部を制した。男子3部は、地元静岡県のチームが活躍し、静岡県警察が準優勝、東海翔柔クラブが3位に入賞した。スタンドから「パパががんばって」という声援が飛び、真剣勝負の中にもさわやかさを感じた。

2日目は男子1部と2部、女子2部の試合が行われた。前日の試合より更に厳しくかつ面白い試合が展開された。男子では旭化成チームの強さが目立った。2部では旭化成チーム同士の決勝戦となり、1部でも旭化

成チームが優勝した。男子は体重別の試合ではなく無差別の戦いであり、何十kgも体重が違う選手同士の戦いは非常に面白く、「柔よく剛を制す」の言葉どおり、大きな相手を投げ飛ばし、会場から大きな歓声が上がった試合もあった。女子2部ではAISOKが底力を発揮して優勝した。

大会運営では地元高校生が活躍し、会場の設営や片付け、補助役員などを務めてくれた。高校生が身近に一流選手の技を見ることができ、大きな刺激を受けてくれたことと思う。



古式の形を演じた渡辺・磯部氏



各種大会の報告

全日本柔道選手権大会(男女)
東海地区大会

平成26年3月2日(日)

三重県

佐藤和哉(静岡学園高校)
予選リーグ2位、決勝リーグ1位、全日本選手権大会出場決定
増田圭省(静岡県警察)
予選リーグ3位

滝川真央(富士市立高校)
予選リーグ3位

仁科鈴菜(富士市立高校)
予選リーグ3位

第36回全国高等学校柔道選手権大会

平成26年3月20日(木) 21日(金・祝)
日本武道館

男子団体

東海大学付属翔洋高校(1人残し)
桐蔭学園高校(神奈川県)
初戦敗退

女子団体

1回戦
藤枝順心高校2-0徳島北高校(徳島)

2回戦
藤枝順心高校0-2埼玉栄高校(埼玉)

男子個人
小林大貴(加藤学園高校)
2回戦進出

73kg級
加藤月歩(加藤学園高校)
2回戦進出

81kg級
佐野安大(静岡学園高校)
3位

90kg級
植田蒼太郎(浜松商業高校)
2回戦進出

無差別級 大橋昂文(日本大学葛城)
初戦敗退
女子個人
52kg級 鈴木茉莉(藤枝順心高校)
3回戦進出

57kg級 谷川美歩(藤枝順心高校)
3回戦進出

63kg級 今 唯(藤枝順心高校)
初戦敗退

70kg級 遠田真子(東海大学翔洋高校)
3回戦進出

無差別級 楠 麻衣(加藤学園高校)
2回戦進出

近代柔道杯全国中学生柔道大会

平成26年3月29日30日
静岡学園1-2沖学園

東海大翔洋0-4大蔵(福岡)

平成26年度全日本選抜
体重別柔道選手権大会

平成26年4月6日(日)
福岡県

男子
81kg級 山下諒輔(静岡県警察)
初戦敗退

全日本カテ柔道体重別選手権大会

平成26年4月13日(日)
大阪なみはやドーム

男子
60kg級 岡本龍司(静岡学園高校)
初戦敗退

女子
44kg級 鈴木茉莉(藤枝順心高校)
優勝

63kg級 水野瑚春(藤枝順心高校)
3位
63kg級 安竹真利奈(東海大学翔洋高校)
3位

全日本柔道選手権大会

平成26年4月29日(火・祝)
日本武道館

佐藤和哉(静岡学園高校) 選手出場
1回戦

佐藤和哉(日本大学) 1-0羽賀龍之介(旭化成)

第34回全国少年柔道大会

平成26年5月5日(月・祝)
講道館

団体戦
1回戦
伊豆長岡柔道会(内容勝)

1-1清心館(滋賀県)
2回戦
伊豆長岡柔道会2-3宜野湾署スポーツ少年団(沖縄県)

個人戦
5年生 岡本治析(伊豆長岡柔道会)
2回戦進出

6年生 小田春樹(伊豆長岡柔道会)
初戦敗退

東海地区「形」競技会

平成26年7月6日(日)
岐阜県

投の形 渡辺達也 佐藤邦彦

固の形 森田賢一 山下朝司

極の形 小椋俊彦 鈴木慎一

柔の形 岡村和幸 佐野宏明
講道館護身術
安竹賢治 渡邊武彦

五の形 小林賢治 小笠原淳

古式の形 磯部正博 渡辺達也

全日本形競技大会 2位
東海地区優勝

第61回東海高等学校総合体育大会柔道競技

平成26年6月21日(土)22日(日)
愛知県武道館

男子団体
東海大学翔洋高校 2位

女子団体
東海大学翔洋高校 2位

藤枝順心高校 3位

男子
60kg級 芹沢翔哉(静岡学園高校)
2位

66kg級 望月飛翔(静岡学園高校)
2位

73kg級 加藤月歩(加藤学園高校)
3位

81kg級 山田知輝(東海大学翔洋高校)
2位

90kg級 植田蒼太郎(浜松商業高校)
3位

100kg超級 井川康平(静岡学園高校)
2位

女子
48kg級 優勝 鈴木茉莉(藤枝順心高校)
3位 岩崎光沙(藤枝順心高校)

57kg級 谷川美歩(藤枝順心高校)
2位
63kg級 水野瑚春(藤枝順心高校)
3位
63kg級 安竹真利奈(東海大学翔洋高校)
3位

70kg級 遠田真子(東海大学翔洋高校)
3位

78kg級 篠田沙織(藤枝順心高校)
3位

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

平成26年6月28日(土)
静岡県武道館

男子
55kg級 加藤唯人(加藤学園高校)
60kg級 小林大貴(加藤学園高校)

66kg級 荒井大成(東海大学翔洋高校)
73kg級 横山綾悟(東海大学翔洋高校)

81kg級 佐野安大(静岡学園高校)
90kg級 植田蒼太郎(浜松商業高校)

100kg級 花井拓哉(浜松北工業高校)
100kg超級 川井康平(静岡学園高校)

女子
44kg級 岩崎光沙(藤枝順心高校)
48kg級 鈴木茉莉(藤枝順心高校)

52kg級 渡辺香奈(藤枝順心高校)
57kg級 谷川美歩(藤枝順心高校)

63kg級 水野瑚春(藤枝順心高校)
70kg級 嘉地唯花(藤枝順心高校)

78kg級 楠 麻衣(加藤学園高校)
78kg超級 大澤宣歩(藤枝順心高校)

なお、東海大会は7月13日(日)静岡県武道館、全国大会は9月13日(土)14日(日)埼玉県にて開催された。

平成26年度静岡県成年柔道
体重別選手権大会
(兼国民体育大会柔道競技選手選考会)

平成26年7月5日(土)

静岡県武道館

- 成年男子
- 60kg級 鈴木優希(流通経済大学)
- 73kg級 眞野洋光(静岡県警察)
- 90kg級 小椋俊彦(静岡県警察)
- 無差別級 滝川英克(静岡県警察)
- 成年女子
- 52kg級 神山結理(立命館大学)
- 70kg級 神林希衣(高岡法科大学)
- 無差別級 村瀬由樹(国際武道大学)

第63回全国高等学校
総合体育大会 柔道競技

平成26年8月2日(土)～6日(水)

千葉県

男子団体戦

- 1回戦 東海大学翔洋高校3-1上宮高校(大阪府)
- 2回戦 東海大学翔洋高校1-3東海大学浦安高校(千葉県)
- 女子団体戦
- 1回戦 藤枝順心高校0-3東大阪大敬愛高校(大阪府)

- 男子
- 60kg級 芹沢翔哉(静岡学園高校)
- 66kg級 望月飛翔(静岡学園高校)
- 73kg級 加藤月歩(加藤学園高校)

- 81kg級 山田知輝(東海大学翔洋高校) 3位
- 90kg級 植田蒼太郎(浜松商業高校) 5位入賞(ベスト8)
- 100kg級 大橋昂文(日本大学三島高校) 初戦敗退
- 100kg超級 林巧真(飛龍高校) 初戦敗退
- 女子
- 48kg級 鈴木茉莉(藤枝順心高校) 初戦敗退
- 52kg級 成宮妃世梨(藤枝順心高校) ベスト16
- 57kg級 谷川美歩(藤枝順心高校) 優勝
- 63kg級 安竹真利奈(東海大学翔洋高校) ベスト16
- 70kg級 遠田真子(東海大学翔洋高校) 初戦敗退
- 78kg級 篠田沙織(藤枝順心高校) 初戦敗退
- 78kg超級 大澤宜歩(藤枝順心高校) 初戦敗退

平成26年度東海中学校
総合体育大会柔道競技

平成26年8月9日(土)10日(日)

岐阜県

- 男子団体
- 3位 東海大学翔洋高校中等部
- 静岡学園中学校

- 男子
- 66kg級 北田晃大
- 73kg級 吉田航(韮山中学校)

第39回全国教員大会

平成26年8月10日(土)

和歌山県

- 監督 大原尚喜(県立新居高校)
- 先鋒 佐々木啓至(県立新居高校)
- 次鋒 川端常弘(県立湖西高校)
- 中堅 山崎大介(県立磐田南高校)
- 副将 高田幸治(私立城南静岡高校)
- 大将 土屋彰裕(湖西市立鷺津中学校)

- 1回戦 静岡県(内容勝) 2-1福井県
- 2回戦 静岡県0-4青森県

回戦で青森県に先行され、前半で勝負がついてしまいました。各先生方がこの大会で得ることができた貴重な経験を、各学校での指導に役立てていただければと思います。

第45回全国定時通信制柔道大会

平成26年8月10日(日)

講道館

- 男子団体戦
- 1回戦 静岡県5-0新潟県
- 2回戦 静岡県3-2東京都A
- 3回戦 静岡県2-3愛知県
- 女子団体戦
- 1回戦 シード
- 2回戦 静岡県2-1千葉県
- 3回戦 静岡県1-2奈良県

- 木下由美(新居高校)
- 河津サユリ(富士高校)
- 芦澤依莉子(未来静岡高校)
- 森安奈(倉橋)
- 男子個人戦
- 65kg級 宇野克(未来静岡高校) 初戦敗退
- 75kg級 山田駿二(三島長陵高校) 3回戦進出(ベスト8)
- 75kg超級 戸田初(浜松工業高校) 初戦敗退
- 女子個人戦
- 52kg級 瀧本光咲(三島長陵高校) 初戦敗退
- 63kg級 加藤樹梨(三島長陵高校) 2回戦進出
- 63kg超級 木下由美(新居高校) 3位

第45回全国中学校柔道大会

平成26年8月22日(金)～25日(月)

愛媛県武道館

- 男子団体戦
- 東海大学翔洋高校中等部1-4福井工業大学福井中学校(福井県)
- 東海大学翔洋高校中等部0-5国士館中学校(東京都)

- 女子団体戦
- 東海大学翔洋高校中等部1-2浜丘中学校(神奈川県)
- 東海大学翔洋高校中等部2-0万石浦中学校(宮城県)
- 予選リーグ敗退

- 個人戦
- 男子
- 50kg級 鈴木大達(浜松西高校中等部) 準々決勝進出(ベスト8)
- 55kg級 矢萩奨真(東海大学翔洋高校) 3回戦進出
- 60kg級 古関夕響(吉原第一中学校) 初戦敗退
- 66kg級 北田晃大(東海大学翔洋高校) 3回戦進出
- 71kg級 小笠原一貴(藤枝明誠中学校) 3回戦進出
- 81kg級 重田幸大(裾野東中学校) 初戦敗退
- 90kg級 大橋海斗(錦田中学校) 3位
- 90kg超級 長屋友神(久呂中学校) 3回戦進出
- 女子
- 40kg級 鈴木葵(藤枝順心中学校) 3回戦進出
- 44kg級 安食亜美(藤枝順心中学校) 初戦敗退

48 kg級 三須 葵 (沼津市立沼津中学校) 初戦敗退
 52 kg級 杉山 奈那 (東海大学翔洋校中室部) 初戦敗退
 57 kg級 増井 涼 (三島北中学校) 初戦敗退
 63 kg級 菊池 さくら (東海大学翔洋校中室部) 3回戦進出
 70 kg級 澤崎 莉子 (東海大学翔洋校中室部) 3回戦進出
 70 kg超級 楠明 日香 (長岡中学校) 2回戦進出

各階級県大会優勝者が全国大会に出場している。

第11回全国小学生学年別柔道大会

平成26年8月17日(日) 岩手県

男子5年 渡邊 爽偉 (清水町柔道会) 初戦敗退
 45 kg超級 山本 師道 (育誠館道場) 2回戦進出
 男子6年 服部 航太 (育誠館道場) 2回戦進出
 50 kg超級 小田 春樹 (伊豆長岡柔道会) 初戦敗退
 40 kg級 杉山 月琉 (清水町柔道会) 2回戦進出
 40 kg超級 澤崎 凜 (清水町柔道会) 優勝
 6年 橋口 英子 (静岡東部柔道クラブ) 初戦敗退
 45 kg級 高山 美優 (焼津誠道館) 2回戦進出

5月25日に実施された県大会の各階級優勝者が全国大会に出場している。

全国警察柔道選手権大会

平成26年9月5日(金) 日本武道館

100 kg級 滝川 初戦敗退
 81 kg級 山下 諒輔 優勝
 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に出場
 73 kg級 眞野 洋光 5位 (ベスト8進出)
 66 kg級 正治和也 優勝
 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に出場

定通制柔道東海大会

平成26年9月7日(日) 愛知県武道館

男子団体戦 クラーク記念国際高校 2位
 島田 商業高校 初戦敗退
 男子個人 風岡 代史 (富士宮東高校) 棄権
 75 kg級 山田 駿治 (三島長陵高校) 優勝
 75 kg超級 戸田 初 (浜松工業高校) 3位
 原田 望 (島田商業高校) 初戦敗退
 52 kg級 瀧本 光咲 (クラーク記念国際高校) 初戦敗退
 63 kg級 加藤 樹梨 (三島長陵高校) 棄権
 63 kg超級 木下 由美 (新居高校) 1位

第3回静岡岡小学生学年別柔道選手権大会

平成26年9月23日(火祝) 静岡県武道館

1年生の部 塩谷 公佑 (高山柔道塾)
 2年生の部 眞田 諒太 (藤枝柔道倶楽部)
 3年生の部 沖山 智 (静岡東部柔道クラブ)
 4年生男子軽量級 田中公介 (三島柔道会)
 4年生男子重量級 渡辺 琉雅 (正心塾渡辺道場)
 4年生女子軽量級 原田 誌依菜 (焼津誠道館)
 4年生女子重量級 飯田 星那 (和道場)
 5年生男子軽量級 渡邊 爽偉 (清水町柔道会)
 5年生男子重量級 佐々木 里旺 (清水柔道倶楽部)
 5年生女子軽量級 杉山 月琉 (清水町柔道会)
 5年生女子重量級 澤崎 凜 (清水町柔道会)
 6年生男子軽量級 平井 貴也 (神土会)
 6年生男子中量級 望月 倅十 (柔清会)
 6年生男子重量級 小田 春樹 (伊豆長岡柔道会)
 6年生女子軽量級 森 千鶴 (積武館)
 6年生女子中量級 新村 侑都 (浜北柔道スポーツ少年団)
 6年生女子重量級 高山 美憂 (焼津誠道館)

第31回静岡岡大学高専柔道秋季優勝大会

平成26年10月12日(日) 静岡産業大学

団体の部 優勝 静岡産業大学
 2位 東海大学海洋学部
 3位 日本大学国際関係学部
 個人戦の部 無段の部 井本草平 (東海大学海洋学部)
 優勝 平野 颯馬 (東海大学海洋学部)
 優勝 松川 勝 (静岡産業大学)
 優勝 岳川 大輝 (静岡産業大学)

講道館杯全日本体重別選手権

平成26年11月8日(土) 9日(日) 千葉県

81 kg級 山下 諒輔 3回戦進出
 66 kg級 正治和也 初戦敗退

第36回全国高等学校柔道選手権大会(男女個人戦) 静岡県大会

平成27年1月17日(土) 静岡県武道館

女子 優勝 鈴木 茉莉 (藤枝順心高校)
 優勝 谷川 美歩 (藤枝順心高校)
 優勝 水野 瑚春 (藤枝順心高校)

70 kg級 優勝 米山 綾乃 (富士市立高校) 無差別級
 優勝 伊藤 七海 (藤枝順心高校) 男子
 60 kg級 優勝 芹沢 翔哉 (静岡学園高校)

73 kg級 優勝 塚本 瑠羽 (東海大学付属翔洋高校)
 81 kg級 優勝 石岡 裕樹 (東海大学付属翔洋高校)
 90 kg級 優勝 鈴木 隆聖 (加藤学園高校) 無差別級
 優勝 井川 康平 (静岡学園高校)

第36回全国高等学校柔道選手権大会(男女団体戦) 静岡県大会

静岡県大会 平成27年1月25日(日) 静岡県武道館

女子団体戦 優勝 藤枝順心高校
 男子団体戦 優勝 静岡学園高校

平成27年3月20日(金) 21日(土) 日本武道館で開催される全国大会に出場する。

速報

全日本柔道選手権大会(男女) 東海地区大会

山下 諒輔 (静岡県警察) 全日本選手権大会出場決定

平成26年度地方審判講習会 静岡県中央審判講習会

平成26年度9月21日(日)午前10時から午後3時 静岡市北部体育館柔道場

静岡県中央審判講習会は全柔連の地方審判講習会を兼ねて実施された。講師として全柔連審判委員長の西田孝宏先生(山梨学院大学教授 講道館7段)が派遣された。

静岡県各地から200名もの会員が参加して講習会は開催された。野田会長挨拶に続いて講師の紹介があり、早速指導が始まった。最近の国際大会での審判の現状について御自身の体験を基に話しされ、新しい審判



規定の解釈について、細かくジェスチャーなどを交えて丁寧に説明して戴きました。

高柳元会長 旭日双光章受章

静岡県柔道協会元会長の高柳喜一さんが平成二十六年秋に旭日双光章を受章され、平成二十七年二月十四日グランドホテル浜松にて祝賀会が開催された。多くの来賓の方々、柔道協会の関係者、先生の母校の静岡県立浜松商業高等学校の関係者、ご親族等三百名弱の参加者があり、高柳先生の受章をお祝いしました。



柔道底辺拡大への取り組み報告

各地区で柔道人口拡大のための取り組みが行われています。今回西部地区の取り組みを中心に各地区の取り組みを報告する。

西部地区

第4回めばえの親子柔道教室

今年度の西部地区の親子柔道教室は11月2日(日)午後1時から午後3時30分に浜松市武道館で実施された。講師は溝口紀子先生(静岡文化芸術大学准教授・バルセロナオリンピック銀メダリスト)。今回は日本女子柔道俱樂部の御協力があり、北田典子先生(ソウルオリンピック銅メダリスト)と松川久美子・後藤徳子先生(日本女子柔道俱樂部)も特別に参加していただきました。

最初に開会式があり、溝口講師の挨拶があり、北田先生から柔道の「礼」を中心にした講話を聞くことができました。その後ラニングで体をほぐしドッジボールで楽しく汗を流しました。

休憩を挟んだ後半では、後ろ受け身と前受け身を親子で練習



中部地区

親子柔道教室

静岡北部体育館 平成26年11月9日(日)午前10時から正午まで
今回は、本年度から立ち上げた「女子部会」を中心に「親子柔道教室」を実施しました。昨年度を上回る、幼児・小学生・保護者の方々合わせて114名の参加があり、それに女子部会の女性指導者その他の指導者が加わり、総勢129名で賑やかなイベントになりました。

まずは専門のインストラクターによる「誰にもできるエアロビクス体操」で心肺機能を働かすようにさせ、各所の幼稚園で行われている、コアキッズ体操や回転運動

東部地区

エアロビ柔道

今年度も例年のようにエアロビ柔道が沼津市立沼津高校柔道場で開催されました。
平成二十六年度は四月二十三日から開始し、毎週水曜日午後七時~午後八時半まで、週二回のペースで実施しています。会場は例年通り沼津市立高等学校柔道場です。今年度はすでに四十回近く実施しています。参加者は数人の時もありましたが最近では増加しており、三十名を超えることもあります。十代から七十台まで老若男女が楽しく活動しています。地元の新聞にも取り上げてもらい、注目を集めています。(道場紹介のコーナーにもとりあげていますので参考にしてください。)

最後に田中幹事長から、「礼法」の説明があり、肅々とした雰囲気で開催となりました。「親子でスキンシップが取れたことが何よりです。」との参加者からの声もいただき、女子部立ち上げに花を添えるイベントになりました。

道場紹介

県内各地でがんばっている「道場」

を各地区2道場ずつ紹介します。

- ①名称
- ②住所(練習場所)
- ③連絡先
- ④代表者氏名
- ⑤所属人数

沼津柔道会

- ②沼津市御幸町15-1
〒410-0832
- ③〒410-0011
沼津市赤岡宮808-7
055-922-1712
090-1620-5207
- ④稲木寛男
- ⑤児童2人、小学生9人、
中学生5人、高校生2人、
大学・社会人20人

⑥道場紹介

戦後焼け野原の荒廃の中で自
失と混乱から立ち直る早道は、
柔道の普及であるという信念の
もと、高田貞治・工藤勝太郎両
先生を中心として、東部を中心
とした愛好家が立ち上がりまし
た。

昭和二十年十月に(株)国産
電機の食堂をお借りして稽古を
開始して以来、警察署や倉庫、
店舗等を転々としての活動を始
めました。各方面から多大な御
理解と御支援を戴き昭和二十五
年七月に、市場町八幡神社の境
内に「沼津柔道館」として始め
て本格的道場の建設が実現いた
しました。道場開きの式典には
嘉納履正講道館長をはじめとし
て、永岡十段、三船十段などの



高段者多数がお祝いに駆けつけ
てくださる榮譽を賜りました。
その後、沼津市の御協力を得て
文化センター内に香陵武道館が
建設され「沼津柔道会」と改め
青少年の健全育成と柔道普及活
動の拠点として、活動してまい
りました。
現在は、火・木・土曜日の午

後六時半より九時までの練習日
には稲木寛男会長を中心に、約
二十名の青少年が集い、土曜
日には近在の他道場よりの出稽
古者多数が加わり、盛んに汗を
流しております。

先人たちの努力と歴史ある道
場の名を汚すことなく、次代の
若者たちに人盡己(じんこ)の
精神を伝えて参りたいと思っ
ております。

エアロビ柔道 (沼津市柔道連盟)

- ②沼津市立高等学校柔道場
- ③〒410-0012
沼津市岡一色792-2
055-923-1358
- ④根木谷信一
- ⑤10代名、40代8名、
50歳以上11名、
年齢不明51名
(平成26年度は一般の
登録者は73名です)

⑥道場紹介

今までの道場紹介とは少し異
なりですが、沼津市柔道連盟の
根木谷信一先生を中心に実践を
続けておられる「エアロビック
柔道」を紹介します。根木谷先
生が長年の創意工夫で始められ
商標登録をされたのが「エアロ
ビック柔道」です。毎週水曜日、
午後七時〜午後八時三十分まで
市立沼津高校柔道場で行われて
おり、希望する老若男女誰でも
自由に参加できます。一回あた
りの参加人数は変動があります
が、最近では毎回四十人前後が
参加しています。美容と健康と



身を守ることを体得できる素晴
らしいエアロビック柔道です。
多くの方々が参加されている
理由は、とても楽しい、高齢者
でもただでトレーニングできる
などで、最高齢者は七十七歳だ
そうです。興味がある方はぜひ
一度見学してください。

柔清会

- ②清水総合運動場内武道場、
県立清水東高等学校柔道場
- ③〒424-0047
静岡市清水区鶴舞町4-14-2
電話054-367-5186
- ④杉山信行
- ⑤児童0人、小学生17人、
中学生3人、高校0人、
大学・社会人4人

⑥道場紹介

平成19年8月に、柔道が好き
で強くなりたい子供たちを集め
て道場を立ち上げました。でも、
単に柔道が強いだけではなく、
厳しい練習の中で強い精神と体
力と、相手を思いやるやさしい
心を、柔道を通して教えていき
たいと練習に励んでいます。
発足当時の人数は三人でした
が、果敢にも団体戦にも出場し
ました。その中、個人戦では鈴
木茉莉さん(現藤枝順心高校)
は全国小学生大会では、五年生
女子軽量級で三位の成績を残す
ことができました。その後の中
学・高校でも優秀な成績を上げ
て、東京オリンピック出場が期
待できる選手になりました。
現在の生徒は二十名で少人数
ではありますが、少人数での良



さを活かして極め細かい指導をしています。また、高校生や中学生も練習に参加して、更なる技術向上を計っています。練習は基本重視のため、小学生では思うような成績は残せませんが、「練習は嘘をつかない」の言葉を胸に将来につながる練習をしています。

練習は毎週月・火・水・金曜日と、隔週土曜日の午後七時～午後九時まで練習をしていますので、元気がありません。一度練習を見に来てください。そして柔道を通して心と体を鍛えてみましょう。お待ちしています。

練正館

- ②静岡県立清水東高等学校 柔道場
- ③〒424-0044 静岡市清水区江尻台町2-2 054-365-6341
- ④徳丸明浩
- ⑤児童5人、小学生20人、中学生16人、高校生2人、社会人2人

⑥道場紹介

平成二十年より有志が集まり活動を始めて今年で七年目になります。

柔道の創始者である嘉納治五郎先生が説いた「精力善用・自他共栄」の精神を基に、柔道の基本である礼儀作法、受身、基本動作を主体とした稽古を行っています。



指導理念としては、日本伝統武道である柔道の精神を学び、現代人が忘れつつある日本の心に触れ、日常の振る舞いやしぐさを大切にし、自らが積極的に日本人としての心の表現ができるようになること目的とした柔道を教えていくことです。

小中学生という人生の価値観に最初に触れ学んでいくこの時期に柔道の教えを通して、生活習慣に「柔道の精神」を取り入れることで、相手を思いやる、ルールを守る、仲間と力を合わせる、我慢する、目標に向かって努力する、勉強や生活態度をしつかりする、素直な心を持つ、目上の人に対しての礼儀、自分のことを思ってくれる人の話し

を素直に聞くことができるようになる、ということを学んで欲しいと思います。

森町クラブ
(森町柔道スポーツ少年団)

- ②森町森・森町中央体育館
- ③〒437-0211 周智郡森町城下611 0538-85-3730
- ④小林好己
- ⑤児童3人、小学生11人、中学生4人、高校生0人、大学・社会人9人

⑥道場紹介

森町柔道教室として昭和二十八年に発足し、森警察署や公民館等で練習をしていました。昭和五十年に森町中央体育館の完成に伴い体育協会に加入し、部員を募集して再スタートをきりました。以来、中央体育館の柔道場を拠点に活動に励んでいます。

しかし、中央体育館老朽化のため取り壊しが決定し、平成二十六年末から使用できなくなりました。新体育館が完成するまでの間、遠江総合高校の武道場をお借りして練習を続けています。

現在は毎週水曜日と金曜日の二回、午後七時から九時まで稽古に励んでいます。「礼儀正しく、忍耐強く、最後までやりぬく」をスローガンに、柔道を通して健全な身体と精神を鍛えています。



また、月に一度程度、近隣地域の他道場との合同練習に参加させていただいています。合同練習では、いつも以上に緊張感を持ち、集中して取組むことができます。

少子化の影響もあり、部員数がなかなか増えないことが課題ですが、日々精進して柔道愛好者の育成を行いたいと思います。

柔心館

- ②〒432-8047 浜松市中区神田町123 浜松市立江西中学校格技場
- ③〒432-8047 浜松市中区神田町154 053-442-1380
- ④酒井義之
- ⑤児童1人、小学生14人、中学生9人、高校生4人、大学・社会人18人

⑥道場紹介

柔心館は浜松市立江西中学校格技場をお借りして、平成十一年六月九日に小学生から一般の



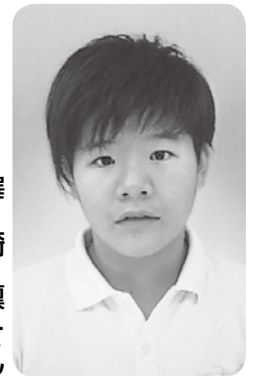
約二十名で発足しました。(当初は「江西柔友会」として発足し平成十七年に改名)

現在、柔心館は小学生・中学生を中心に月曜日・水曜日・金曜日の午後七時～九時まで稽古に励んでいます。

私達は「心・技・体」を motto に、保護者や相手に対して感謝・思いやりの心を正しい礼法で表すことを学び、体力向上トレーニングをして病気や怪我に強い体を作り、正しい受身と体捌き、そしてしっかりと技をかける稽古を心がけております。また、五年に一度、試合でのマナーや小学生が行う「投げの形」を重要視した記念柔道大会を開催しており、将来社会に貢献できる人材育成を目指しております。

新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーを継続することができた。全国大会で3位までに入賞した若い選手（高校生以下の選手）を紹介しているコーナーで、今年度は9名の選手が該当した。今回はそのうち8名（男子3、女子5名）を紹介することができる。国際大会で結果を残してくれた選手も多く、今後が期待される。連続して紹介する選手もあり、「新人」ではないかもしれないが順調に成長している様子が伺われる。



澤崎 凜さん

(清水町柔道会)

全日本小学生学年別柔道大会
小学5年生女子40kg超級優勝

澤崎さんが柔道を始めたきっかけは「父と姉の影響」ということで、柔道一家のようです。

今回の優勝については、「非常にうれしかったのですが、まだまだ課題がありました。この優勝で満足する事なく、来年も優勝できるように毎回の練習を大事にしていきたい。」と浮かれる事無く、来年を見据えています。

本人も言っているように、当然来年の全国大会優勝（連覇）が目標でしょう。さらにその先に「2020年東京オリンピック優勝」と大きな夢を持っているそうです。

指導者からは「今回の結果に満足せず、将来もっと大きな舞台で活躍できるように成長してほしい。」とエールを贈られています。



安竹 真利奈さん

(東海大学翔洋高校)

全日本カデ柔道体重別選手権大会
女子63kg級3位

昨年も紹介しましたが、安竹さんが柔道を始めたきっかけは「父が柔道の先生だったため。」ということでした。

今回の入賞については「中学3年の時、東海大会で勝てなかった相手にこの大会では勝つことができたので嬉しかったです。しかし、全国大会の準決勝で敗れた相手には全く歯が立たなかったため、納得はいきませんでした」と成長と課題を感じているようです。

今後の夢は「今まで以上に努力して、技やスピード・パワーを身につけ日本一になりたい。」と今回果せなかった「日本一」の夢をかなえたいという強い意志を見せてくれています。

指導者されている古内コーチからは「中学生の時に全国3位という結果で、カデに出場する

権利を自らの手で掴み取り、次のステージで戦うことができました。結果としては3位でしたが、今の力が試された良い試合だったと思います。次はジュニアというステージで戦ってほしいという毎日精進してほしいと思います。」と暖かい言葉を贈られています。



水野 瑚春さん

(藤枝順心高校)

全日本カデ柔道体重別選手権大会
女子63kg級3位

水野さんが柔道を始めたきっかけは「友人に誘われて始めました。」ということで、本当に良くあるケースです。

今回の入賞については、「試合の内容が悪く、自分の力が出せなくて悔しかったです。」ということ、満足していないようです。

今後の目標は「日本一になること。」と力強く語っています。



鈴木 茉莉さん

(藤枝順心高校)

全日本カデ柔道体重別選手権大会
女子44kg級優勝

鈴木さんはこのコーナーの常連で、昨年は世界でも活躍しています。昨年紹介しましたが、鈴木さんが柔道を始めたきっかけは「兄がやっていたから。」という、ごく普通の理由です。

今回の優勝については「良い試合をすることができなかったのが悔しかった。」と試合結果ではなく、試合の内容を厳しく見つめています。

今後の夢は、「日本一になること。」自分の足をしっかりと見つけています。





谷川さんが柔道を始めたきっかけは、「兄と姉の練習に一緒に付いて行ったら、道場の先生に誘われて始めました。」ということです。

今回の優勝については、「優勝した時は、とても嬉しかったです。」と素直に喜びを語ってくれました。

今後の夢は、「試合や練習で見つかった課題を一つでも多く克服していき、世界で勝てるような強い選手になりたいです。」と控えめですが力強く語ってくれました。



谷川 美歩さん
(藤枝順心高校)

全国高等学校総合体育大会柔道競技女子57kg級優勝



大橋 海斗さん
(三島市立錦田中学校)

全国中学校体育大会柔道競技男子90kg級3位

大橋君が柔道を始めたきっかけは、「親の知人に勧められたから」ということで、知人に『見る目』があったと思います。

今回の結果については、「今回の大会が終わり3位という結果でしたが、決して満足のいく結果ではありませんでした。しかし、この3位は次につながる3位だったと思います。全国の強豪と戦い準決勝で優勝者と試合することができ、自分の新たな課題を見つけることができ、とても良い経験になりました。」と、冷静に克前向きに分析しています。

今後については、「中学で取れなかった日本一を目指し、高校で精進していきます。」力強く決意を語ってくれました。

柔道部の顧問、三枝先生からは、「大橋君は天才というより、努力の天才です。中学校の部活

動では部長として23人の部員をまとめ、本当によくがんばりました。部活動が終わると道場の練習へ、更に兄が通う高校へも出稽古に行きました。練習では決して手を抜かず、誰よりも真剣に取り組む姿勢が彼を強くしていったのだと思います。2020年の東京オリンピックを目指して頑張っていてほしいものです。」と期待の言葉を贈られています。



佐野 安 大さん
(静岡学園高校)

全国高等学校柔道選手権大会男子81kg級3位

佐野君が柔道を始めたきっかけは、「兄が柔道をしていたので、その影響で柔道を習い始めました。」ということ、やはり兄弟の影響です。

今回の入賞に関しては、「全国3位に入賞できたことは嬉しいのですが、優勝者に完敗したことで自分の力の無さを感じ悔しかった」と、喜びよりも、悔しさの方が勝っているように感じます。

今後については、「大学で、再び全国大会に出場し、今度こそ日本一になりたい。」と大きな目標を持っています。

渡邊柔道部顧問からは、「柔道に対して情熱は強く、何事にも最後までやり抜くことができると生徒です。けつして柔道のセンスが高いわけではないが、努力することで補っている。文武両道を貫いている生徒であり、静岡学園の中学校に入学して以来六年間常にクラスでもトップを維持している。今後も柔道を続けていくので、ぜひとも目標である『日本一』を達成して欲しい。」と大きな期待を寄せられています。



山田 知輝さん
(東海大学翔洋高校)

全国高等学校総合体育大会柔道競技男子81kg級3位

山田君が柔道を始めたきっかけは「兄が最初にやっていて、道場に親と姉と自分で見に行っ

たときに、親に勧められて柔道を始めた。」という、良くあるケースであるが、本当に始めてよかったと思う。

今回の全国大会入賞に関して

は、「個人戦で初めて全国大会に出場できた。最終学年でもあるので、絶対に優勝するという気持ちで大会に臨んだ。しかし、結果は3位だった。優勝することはできなかったが、全国大会で3位に入賞できたことはすごくうれいす。」と素直に喜びを語ってくれました。

今後は大学に進学し、柔道を続け大学では日本一になるという目標を持っており、さらに2020年の東京オリンピックに出場し優勝するという大きな夢も持っている。夢の実現を目指して頑張ってほしい。

古内コーチからは、「チームのエースとして成長してきて、県で優勝したときにはうまくいけばもしかしたら(全国で勝てる)とは感じていました。結果は3位入賞でしたが、本人にとって良かったと思います。しかし、ここからが本当の勝負、大学に進学してもっともっと強くなってくれることを期待しています。」と山田君にエールを贈られています。

訃報



池上耐事 八段

中部地区で永年活躍された池上耐事八段は、平成二十六年十月二十一日逝去されました。先生は東海大学第一中学校を卒業後、静岡県立静岡工業高等学校へ入学。この頃から柔道を習い始め初段、二段、三段と一年間隔で昇段、静岡刑務所刑務官、その後日本鋼管株式会社清水製作所に勤務され、全日本柔道選手権大会へは四回出場し東京体育館を沸かせました。国民体育大会にも鎌倉国体から岐阜国体まで十回出場し、この間アジア大会、全日本東西対抗などにも出場、静岡に池上ありと名を轟かせました。また、優秀選手賞や功労賞を日本体育協会、静岡県知事、静岡県柔道協会、全日本実業柔道連盟、全国造船工業会等から受賞され、そして静岡県柔道協合理事、旧清水市体育協会常任理事、東海柔道連合会評議員などの要職を務めました。合気道にも精通され、養神館合気道五段の腕

前でした。

先生のご冥福を祈り、我々一丸となって中部地区の柔道発展をお誓い申し上げます。

合掌

(静岡県柔道協会中部地区幹事長

田中秀幸



山之内良彦 六段

裾野柔道協会会長、講道館柔道六段山之内良彦先生が去る平成二十六年十月十日、享年七十三歳をもって逝去されました。

山之内先生は、長崎県の生まれで十三歳で柔道を始められ、長崎県立佐世保商業高校時代は柔道部に入部し、常に県大会出場を果され、昭和三十四年柔道特待生として大阪の三菱電機株式会社社に就職し、実業団の柔道で活躍されました。そして、昭和三十七年より裾野に住居を移し、裾野柔道協会の選手並びに役員として、県柔道祭では三位三回、県スポーツ祭では優勝二回、準優勝、三位各一回、東部柔道祭では優勝、準優勝各一回、三位二回という素晴らしい成績を残しておられます。団体戦の

選手として活躍するだけでなく、柔道の普及や青少年の育成にご尽力され、現在まで裾野柔道協会会長としての重責を果しておられました。

また、昭和四十年より東部地区役員として四十九年間に亘り、数多くの大会において審判などを務められ大会運営にも積極的

に貢献されました。平成二十四年からは参与として多くの方々の信望を集めておりました。

柔道関係者のもとより、多くの方々から慕われていた先生のご冥福を心からお祈りいたします。

合掌

今富孝憲

静岡県柔道協会指導者心得

- 1 指導に当たっては、暴力行為・パワハラ行為は一切行ってはならない。
- 2 日頃から危機管理に留意し、事故・怪我等が発生した場合には最善かつ適切な処置をする。
- 3 家庭との連絡を定期的に行い、子どもや生徒の健康状態等の把握に努める。
- 4 柔道の素晴らしい伝統文化を伝えるため、常に修養と研鑽を怠らない。

平成25年4月21日静岡県柔道協会

「暴力の根絶」についての静岡県柔道協会の対応

I 組織

暴力根絶委員会(専門委員会として)を設置する

II 委員会の構成

1 委員会の構成14名

委員長1名 県柔道協会会長

副委員長2名 県柔道協合理事長

県少年柔道連絡協議会会長

委員11名 県柔道協会幹事長3

事務局長 県少年柔道連絡協議会地区役員3 女性代表

中学代表 高校代表 大学代表

※幹事長・道場連盟役員・女性代表・学校代表は該当地区や

女性問題・種別に係る場合だけ協議に加わる。なお、重大な事案が発生した場合は原則として14名全員で協議を行い、全柔連に報告する。

III 窓口(4箇所)

幹事長宅(3箇所) 事務局長宅

IV 対応

1 窓口に通報があった場合は

(1) 「通報者の状況調査書」により事情聴取する。

(2) 全て副委員長(理事長)に報告し、状況により委員会の開催を依頼する。

2 中学・高校・大学の教員が該当する場合には、当該学校の管理職に報告し指導を任せる。

3 部活動等の外部指導者が該当する場合には、部活動顧

問に報告し対応を学校に任せ、なおかつ委員会指導内容を決定する。

4 大会等で見聞きした場合に

は、副委員長(理事長、道場連盟会長)が種別(小・中・高・大)の協力を得て事情聴取する。

※ただし、以上1~4のいずれも処分を行った場合、全柔連報告書に記載し、全柔連および

通報者に連絡する。

V 周知の方法

1 大会プログラムに掲載し、開

会式で説明する。(保護者に周知する)

2 手引書に掲載

3 柔道しずおかに掲載

4 その他

編集後記

静岡県柔道協会にとって平成26年度は重要な年になったと思う。野田新会長が就任し、新しい体制でスタートし、多方面で機構改革を行っている。柔道人口減少、柔道指導者の暴力問題、柔道事故の問題と、全国的に大きな問題が続く柔道界を地方からどう立て直していくことができるか、静岡県の新しい取組が始まった。静岡県の柔道関係者全員で力を合わせて嘉納治五郎先生の柔道を発展させていきたいと思います。